

経営比較分析表

佐賀県 雄野市

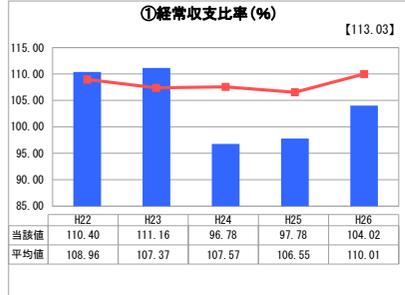
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	81.07	93.70	3,740

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,703	126.41	219.15
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
25,734	83.40	308.56

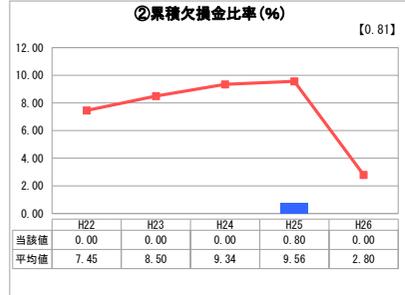
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

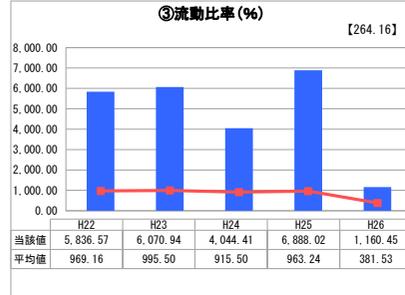
1. 経営の健全性・効率性



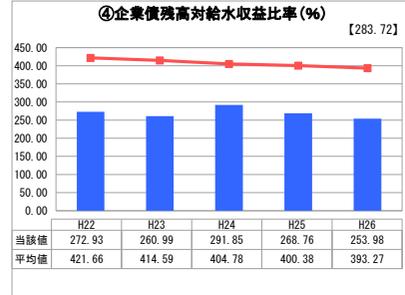
「経常損益」



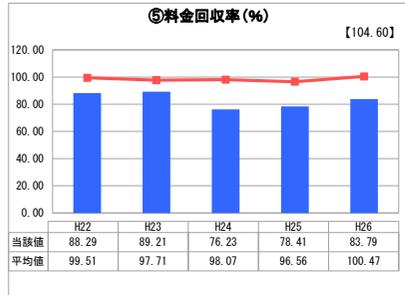
「累積欠損」



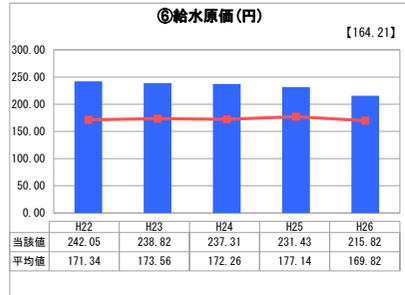
「支払能力」



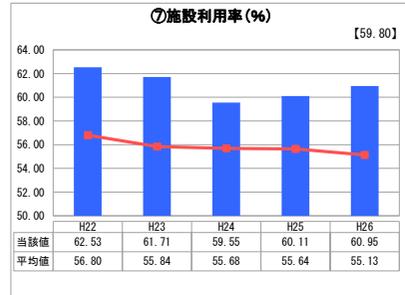
「債務残高」



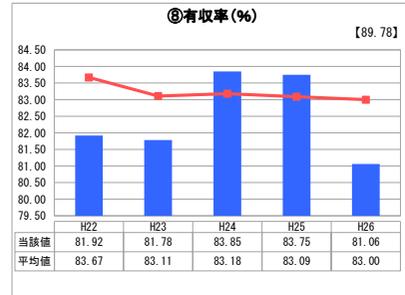
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

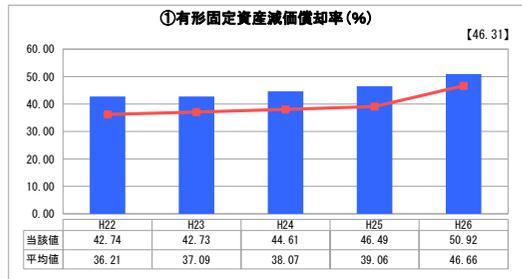


「施設の効率性」

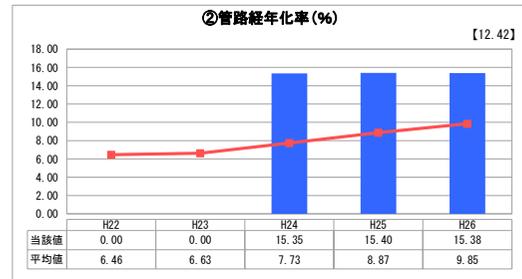


「供給した配水量の効率性」

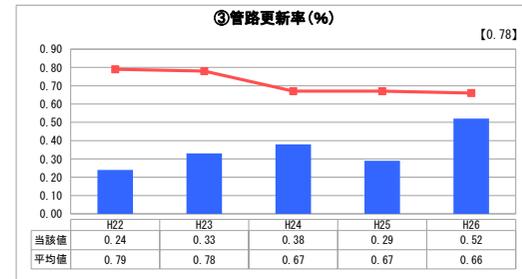
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率は、平成23年度までは100%を超えており黒字であったが、平成24年度に合併前の旧町単位で異なっていた水道料金を統一したため低下し、赤字化した。平成26年度は、公営企業会計基準の見直しにより黒字化した。資金面では経営実態が変わるものではない。
- ② 流動比率は、平成25年度までは類似団体平均を大きく上回っていたが、平成26年度は公営企業会計基準の見直しにより大きく減少した。
- ③ 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均と比べ低い数値で推移してきたが、平成27年度から平成28年度まで簡易水道統合事業や未普及地域解消事業を行うため、今後は企業債の借入が増加する見込みである。
- ④ 料金回収率を見ても、100%を下回っており給水収益では費用を賄っていない。今後、経常収支比率の改善を進めなければ厳しい状況となっていくため、適切な料金改定を検討し健全性の維持を図るよう努める。
- ⑤ 給水原価は、維持管理費の削減をできる限り行っているが、有収率が低いまま高く推移している。
- ⑥ 有収率は、老朽管の更新が追いついていないため漏水が発生しており、低い値となっている。効率性に問題があるので計画的に老朽管の更新を行うよう努める。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、年々上昇し平成26年度は約50%となっており、類似団体よりも老朽化が進んでいると思われる。
- また、② 管路経年率を見ても、毎年老朽管更新を行っているが法定耐用年数を経過した管路が多くなっており、更新を急がなければならない。財源の確保は厳しいものの、漏水箇所の多い本管を計画的に更新し維持していくことに努める。

全体総括

今後は、水道事業の経営について人口減少等による給水収益の減少や、老朽管の更新による費用の増加が見込まれるので、早急に適切な料金の改定、及び老朽管の更新計画を検討し、水道事業の健全な維持に努める。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。